



東浦地区は、神戸方面への交通の便が良く、海や山など自然環境にも恵まれた地域です。新しい住宅地や大型店舗も進出してきて、街の様子も年々変化してきているように感じます。

昨年10月に創立50周年記念式典が行われ、現在、全校生徒数は、少子化の影響もあり、1年65名、2年79名、3年77名の221名です。校訓である「全校一心」のもとに、生徒たちは仲良く元気に落ち着いた学校生活を送っています。また、「命を大切に」を第一として、自分を大切にすること、そして同様に隣人を大切にする思いやりの心、豊かな心の醸成に努めています。「高い志を持ち、『自ら学び、



福祉活動の様子

考え、行動できる』ところ豊かな生徒の育成」を教育目標に掲げ、生徒たちの健やかな成長のためにキャリア教育の視点で、「私という主語で語れる生徒」の育成を行っています。それぞれの段階での体験活動から、自己を見つめ自分の生き方について考えを深めています。各行事や「トライやるウィーク」、修学旅行の体験を通じて生きていく上での大切なことをキャリアノートにまとめています。

また、長年にわたる本校の特色ある取り組みとして福祉活動があります。各部活動が地域の福祉施設を訪問し、施設の清掃活動や吹奏楽の演奏、似顔絵を描いたり、劇を演じたり、お年寄りの方と遊んだ



弁論大会予選の様子

り、昔話を聞いたりしています。施設の方々とふれあいを通して、福祉についての理解を深め、人間の生き方について学び、それぞれの立場や心情を思いやり、互いに支えあうことの素晴らしさにふれるような活動になっています。11月に行われた文化発表会では、「夢宣言」として自身の夢をこれまでの学習活動や体験を踏まえ将来について語ります。堂々と発表している姿を見るたびに生徒たちの成長を感じ取れます。「青少年の主張」では本校生が県の最優秀賞にあたる県知事賞を受賞しました。また、クラス合唱や有志発表など、年ごとにレベルアップし自己表現や個性の伸長がうかがえました。

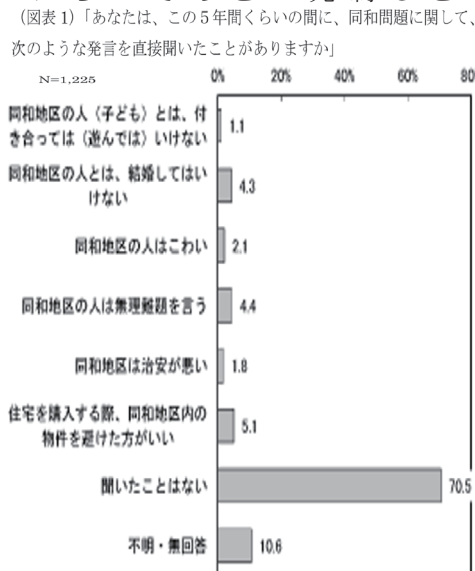


「部落差別解消推進法」を知っていますか？

昨年12月「部落差別の解消の推進に関する法律」（部落差別解消推進法）が施行されました。この法律は、インターネット上の差別情報の氾濫など、今日にいたってなお存在する部落差別の実態を踏まえ、「部落差別は社会悪である」ことを明確にした理念法です。そして、国と自治体に対して、相談体制や教育・啓発活動の充実、実態調査などの施策を進めるよう促しています。

調査からいえることは、同和問題に関する科学的な認識をしっかりと身につけなければ、間違った情報をそのまま無防備に受け入れてしまう危険性があるということです。「部落差別解消推進法」に基づき、人権教育や人権啓発を通して、時代に合った正しい認識を育てる必要があります。

（図表1）「あなたは、この5年間くらいの間に、同和問題に関して、次のような発言を直接聞いたことがありますか」



同和問題に関する様々な差別的発言を聞いている人は、回答者1225人のうち231人もいます。しかも、その発言を聞いて、「そのとおりと思った」と「反発・疑問を感じることなく、そういう見方もあるのかと思った」という回答を合わせると半数を超えます。